

新連載

Turbo

HAMLOGの

部屋

Turbo HAMLOG開発者
JGIMOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第2回

Turbo HAMLOG/Winを使ってみよう

Turbo HAMLOG/Winのインストール

最近のパソコンのWindowsはセキュリティが強く、初めて Turbo HAMLOG/Win (以下、HAMLOGと略します) をダウンロードやインストールしたとき警告が表示されて戸惑うことが多いようです。

図1のようにセキュリティソフトから警告が出ることがありますが、ここは拙作のソフトを信頼していただき、[信頼する]や[ファイルを開く]などを選択してください。ホームページからダウンロードするファイルは、半自動インストールとZIP形式圧縮ファイルがあります(※1)。

パソコンに詳しい方ならZIP形式圧縮ファイルを解凍してインストールするのも良いと思いますが、本稿では半自動インストールをご紹介します。

図2はダウンロードしたファイルです。本稿執筆時点ではバージョン5.42が最新で、ファイル名はThw542.exeとなっています。

このファイルを実行するとインストールが始まり、図3のメッセージが表示されますので一応ご覧ください。よろしければ[はい(Y)]をクリックします。

図4ではインストールするフォルダを設定します。初期設定ではC:\¥Hamlogフォルダです。

階層の深いフォルダや、C:\¥Program FilesとかC:\¥Program Files (x86)などは避けたほうが良い

ウイルスバスター クラウド

不審なファイルのブロック

安全のため、ランサムウェアなどの可能性のあるファイルをブロックしました。信頼できる提供元からのファイルのみ開いてください。詳細の表示

ファイル名: hamlogw.exe

提供元: http://hamlog.no.cooca...

ファイルを開く

ファイルの削除



OK

図1 筆者のパソコンの例で、ウイルスバスターからの警告表示。HAMLOGを例外設定すればその後は出ない

図2 半自動インストール版ファイルのアイコン。これをダブルクリックするとHAMLOGのインストールが始まる



Thw542.exe

と思います。

特に初期設定のままでよければ、[次へ(N) >]を何回かクリックしていくとインストールが完了し、メモ帳などで変更点が表示されます。

※1 HAMLOGは、次のホームページからダウンロードすることができます。

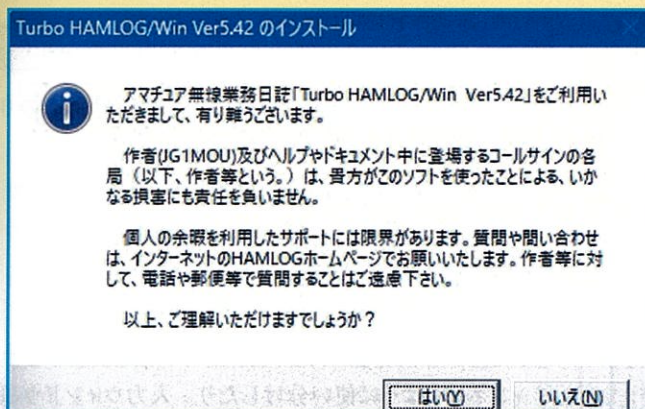


図3 図2のファイルを実行して表示されるメッセージ

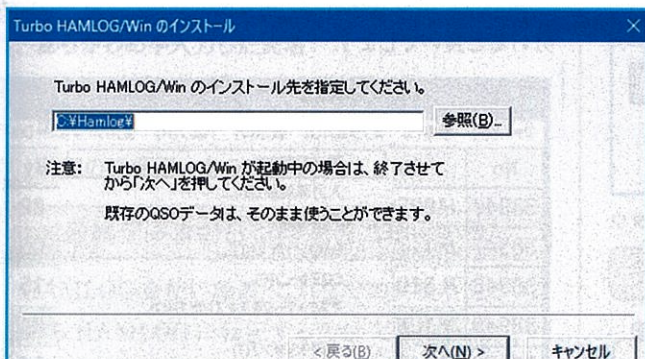


図4 ここからHAMLOGのインストールが始まる

図5 パソコンのデスクトップ上に表示されたHAMLOGのアイコン



図5は、パソコンのデスクトップ上に表示されたHAMLOGのアイコンです。以後は、このアイコンをダブルクリックするとHAMLOGが起動するのですが、またセキュリティで引っかかり、セキュリティソフトから「出所が信頼できないソフト」云々のメッセージが出る場合があります。

この場合も「信頼する」を選択して実行してください。これについては、セキュリティソフトによって処理が異なります。

また、HAMLOGではインターネット接続を伴う機能がいくつかありますので、セキュリティソフト上でHAMLOGを例外設定しておくとういでしょう。

図6は、ウイルスバスターにおいてHAMLOGとhQSLが不正なプログラムとして誤検知されないよう例外設定した状況です。

バージョンアップの場合

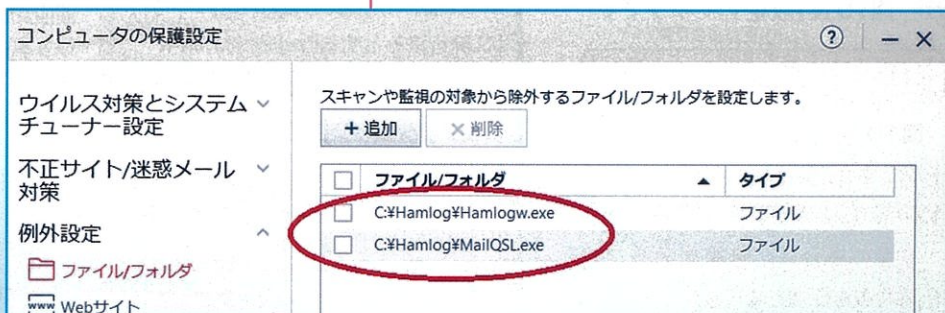
すでにバージョン 5.32 (2021/01/09 作成) 以降のHAMLOGをお使いであれば、ブラウザを使うことなくダウンロードし、そのままバージョンアップすることができます。

図7は、HAMLOGのヘルプメニューからバージョン情報を表示させた状況です。このまま「最新版の確認」というボタンをクリックします。



図7 ヘルプメニューからバージョン情報を表示させた状況。2023年5月のバージョン

図6 ウィルスバスターでHAMLOGとhQSLを例外設定した状況



すると、図8のように「最新版が見つかりました」と表示されますので、「ダウンロード開始」ボタンをクリックしてください。これは筆者のサーバーにアクセスし、最新版の有無を確認しているものです。

ダウンロード完了後の操作は、前述の図3 (p.37) から始まる説明のとおりです。



図8 図7の「最新版の確認」ボタンをクリックすると「ダウンロード開始」ボタンに変わる

筆者お勧めの設定

すでにHAMLOGを使いこなしているユーザーにとってはそれぞれお好みの設定があるかと思いますが、本稿では初めての方にお勧めと思う設定をいくつか紹介します。

環境設定について

まず、図9のオプションメニューから環境設定を表示させます。図10は環境設定で、何も手を加えていない、はじめて表示させたHAMLOGの環境設定の状況です。

環境設定は8個のタブに分かれており、図10は「設定1」のタブです。

タイトル(T)

図10 環境設定「設定1」のタイトルですが、メインウィンドウのタイトルバーに表示される文字列です。

筆者の場合は、無線局免許状の有効期限を記載しています。

入力ウィンドウ B C D E F

入力ウィンドウはLOG-[A]からLOG-[F]までの6個を表示させることができます。

図10 環境設定「設定1」ではLOG-[B]にレ点が入っており、LOG-[A]は常に使用する入力ウィンドウなので初期設定ではLOG-[A]とLOG-[B]が使える、リグのVFOのA/Bのように使うことができます。

入力ウィンドウが複数あることにより、リグのメモリーチャンネルのように使い分けしたり、入力ウィンドウごとにリグと紐づけた使い方ができます。

慣れてきたらLOG-[F]まで全部レ点を入れて使い分けると良いでしょう。

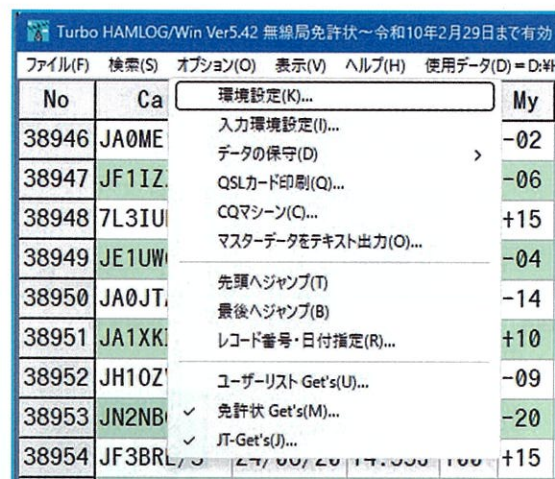


図9 HAMLOGのオプションメニュー

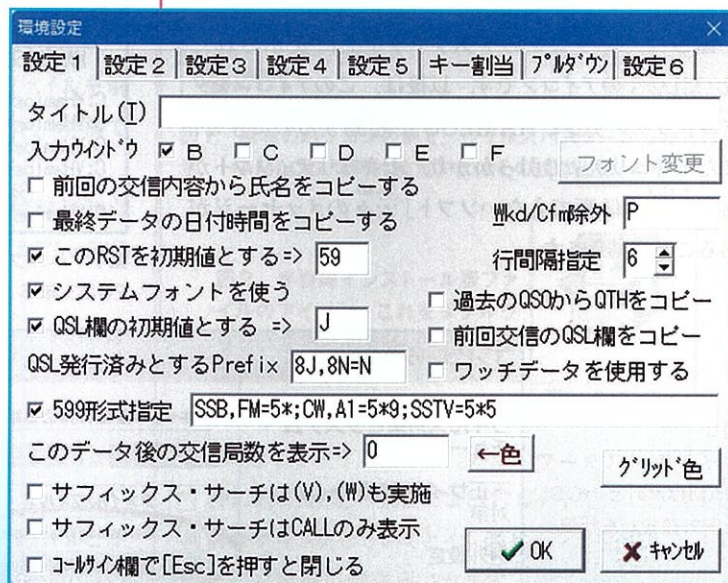


図10 新規にインストールし、環境設定の「設定1」タブを表示させた状況

前回の交信内容から氏名をコピーする

図10 環境設定[設定1]のこのチェックボックスは、2nd-QSO以降の場合に相手局の氏名やハンドルネームを再入力するのが面倒なので設けた機能です。

このチェックボックスは三段階になっていて、黒色のレ点が入っていれば前回の交信データから氏名入力欄にコピーされます。これは、HAMLOG ユーザーリストなどの登録済みデータ類から取り込まれた氏名よりも優先します。

淡色のレ点が入っていれば、次の順番で優先してコピーされます(筆者個人的にはお勧め)。

1. あらかじめ手入力した氏名
2. HAMLOG ユーザーリストなど登録済みデータ類の氏名
3. 前回の交信データの氏名

最終データの日付時間をコピーする

HAMLOG を使い始め、これまでの何冊もあるログ帳から HAMLOG に転記するのは大変な作業です。しかし、この作業をすることにより指が HAMLOG に慣れてくるというメリットもあると思います(※2)。

図10 環境設定[設定1]のこのチェックボックスは、手書きのログ帳から転記するときに便利な機能です。

このチェックボックスも三段階になっています。

黒色のレ点が入っていると、コールサインを入力して Enter キーを押したとき

に、現在の日付時間ではなく最後に入力した交信データの日付時間がコピーされます。日付の欄では年月日の位置にカーソルが行きます。

淡色のレ点が入っている場合、時間の欄で時を飛び越して分の位置にカーソルが行きます。

これらは、ある程度連続した日時が紙のログ帳に記載されているものと想定し、最小限のキー入力で済むようにしたものです。

もちろん、通常の無線運用に戻るときは、忘れずにレ点を外してくださいね。

日付時間順にソート

紙のログ帳から過去の交信を転記するときは新しいログ帳から入力し、ある程度入力したらその都度、日付時間順に並び変えるのが良いと思います。

図11 は、オプションメニューから[日付時間順にソート]を選択した状況です。図12 のように指定した範囲だけを並び替えることができます。

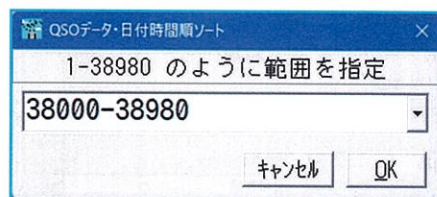


図12 日付時間順ソートで、ソートしたい範囲を指定した状況

システムフォントを使う

図10 環境設定[設定1]のこのチェックボックスのレ点を外すと、右上にある[フォント変更]ボタンが有効になり、メインウィンドウなど一覧表示される文字フォントを変更することができます。

筆者の場合は、図13 (p.40) のように文字フォントに[IPA ゴシック]を使用しています。IPA ゴシックでは数字のゼロに斜線が入りますので、アマチュア無線の

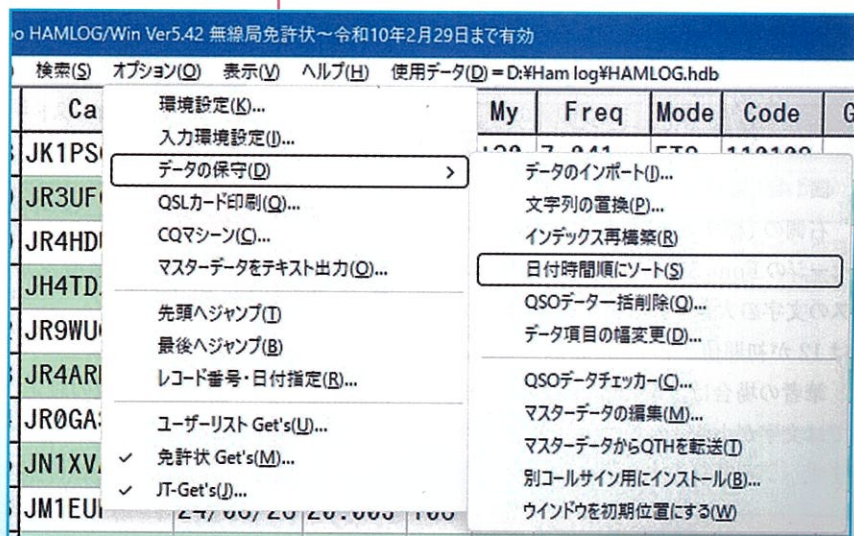


図11 オプションメニューから[日付時間順にソート]を選択した状況。クリックすると図12が表示される

ログ入力にお勧めです(※3)。

また、筆者の場合は老眼のため図13のようにフォントサイズを14と、大きめに設定しています。フォントサイズを大きめにしたら、[行間隔指定]の数字も少し大きめに調整してみてください。

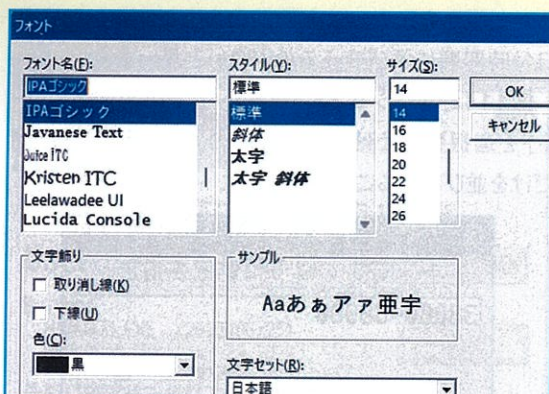


図13 メインウィンドウなど一覧表示のフォント設定。図18の入力環境設定からのフォント設定と同様

過去のQSOからQTHをコピー

図10 環境設定[設定1]のこのチェックボックスは、入力ウィンドウのコールサインを入力して2nd-QSO以上だった場合、相手局との交信履歴のうち最新の固定運用のデータからCODEとQTHを取り込みます。

ただし、HAMLOG ユーザーリストなどにヒットしていれば、そちらからの取り込みを優先します。もし、相手局が移動運用だった場合や、相手局との交信履歴がすべて移動運用だった場合は、過去のQSOから取り込みません。また、DX局の場合は自動でエントリが入りますので機能しません。

確認メッセージのFont.Size

図14、環境設定[設定3]です。

右側の[標準メッセージ]のレ点を外すと、[確認メッセージのFont.Size]が有効になり、メッセージボックスの文字の大きさを調整することができます。図14では12が初期値となっています。

筆者の場合は、Windows 標準のメッセージボックスでは文字が小さいので、サイズを12~13で使用しています。

1行おきに色を付ける

図15、環境設定[設定4]の左下です。

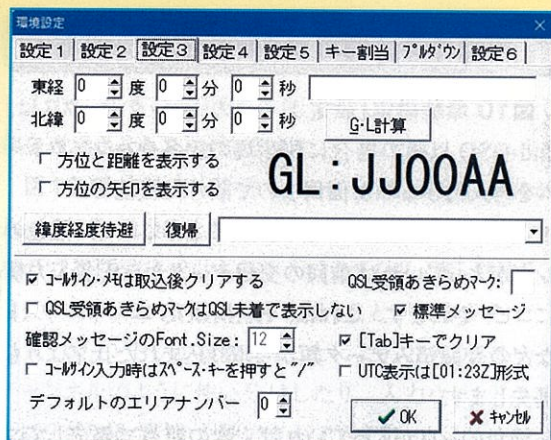


図14 新規にインストールし、環境設定の[設定3]タブを表示させた状況

[1行おきに色を付ける]にレ点を入れ、その隣の[色]ボタンをクリックするとカラー選択のウィンドウが表示されます。

薄めの色を選択しておくと、メインウィンドウなどが1行おきに薄い色で一覧表示されて見やすくなります。

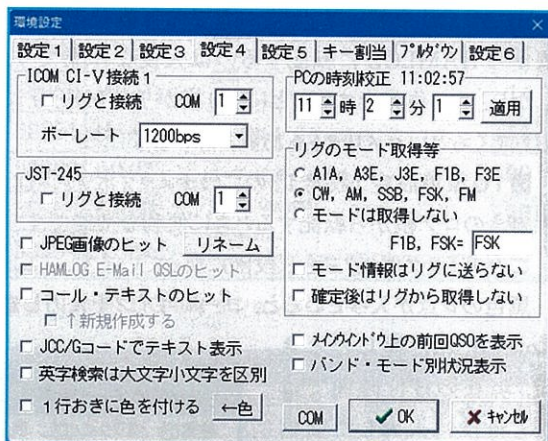


図15 新規にインストールし、環境設定の[設定4]タブを表示させた状況

キー割当について

図16は、環境設定の[キー割当]タブを開いた状況です。

左側の設定は主に入力・修正ウィンドウのショートカットキーで、右側の設定は主にメインウィンドウの検索メニューなどです。

図16の例では、左側の設定で[QSOデータの登録]にF12キーが割り当てられていますので、コールサインを入力してF12キーを押すだけでログ入力完了、ということも可能です。

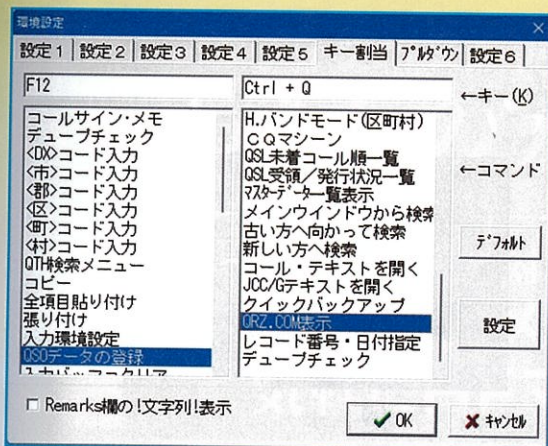


図16 環境設定の「キー割当」タブを開いた状況

右側の設定で「QRZ.COM表示」にCtrl + Q キーが割り当てられています。

図17は、入力ウィンドウで右クリックしたときのポップアップメニューです。キー割当した結果は、各メニューの右端に表示されます。これはWindowsのショートカットキーという機能です。

キー割当できる機能はたくさんありますので、詳しくはF1キーを押してヘルプをご覧ください。

入力環境設定で文字を大きく表示

図9 (p.38) のオプションメニューには、入力環境設定があります。

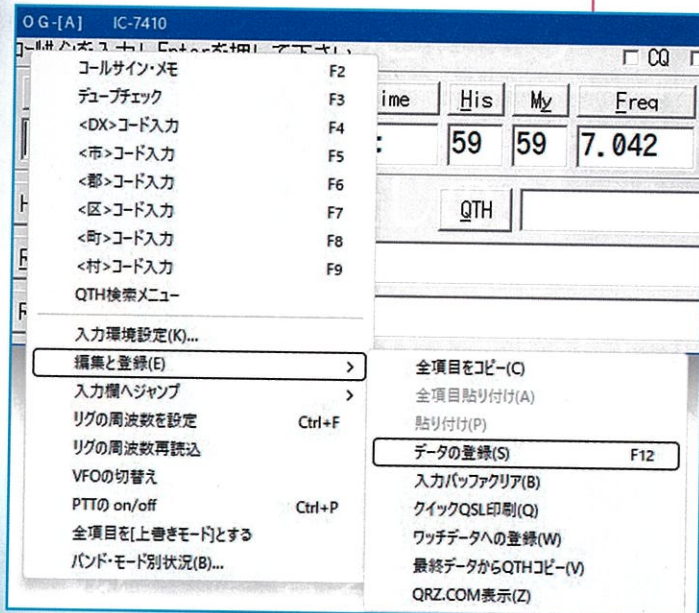


図17 入力ウィンドウで右クリックしたときのポップアップメニュー。キー割当てしたショートカットキーが各メニューの右端に表示されている

図18は、オプションメニューから入力環境設定を表示させた状況です。図17の、入力ウィンドウを右クリックしたときのポップアップメニューからも表示させることもできます。

入力環境設定の右下には「フォント」というボタンがあり、図13のフォント設定が表示されます。

筆者の場合は、フォントサイズを18に設定しています。フォントサイズを大きくすると、入力ウィンドウも大きくなって見やすくなります。これも老眼対策です。

また、図19の入力ウィンドウで表示されているように、ここでもフォントは「IPAゴシック」を使用しています。

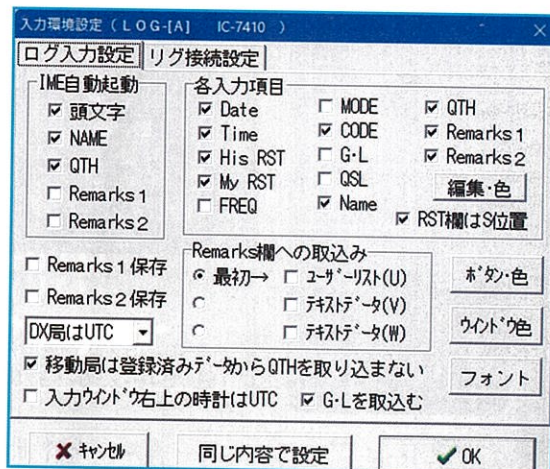


図18 入力環境設定。入力ウィンドウごとに異なる設定とすることができる。オプションメニューや、入力ウィンドウを右クリックしたときのポップアップメニューから表示させることができる

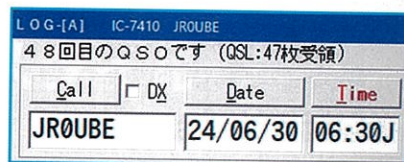


図19 入力ウィンドウのコールサインや日付時間の表示。IPAゴシックを使っているため数字のゼロには斜線が入っている

結びに

今回は、知っている方は知っているような機能をおこまごまとご紹介いたしました。「あ、これは知らなかった」という機能があれば幸いです。